



物價決定ノ原則ニツキテ([1])

河津, 暹

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 1(1):37-49

(Issue Date)

1906-06

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051013>



物價決定ノ原則ニツキテ

東京帝國大學法科大學助教授

法學士 河津

暹

〔一〕

物價決定ノ原則ハ經濟原理中最モ解シ難キモノ、一ナリ之ニ關スル學說一ニシテ足ラスト雖モ、說キ得テ我等研究ノ道ニアル者ヲシテ満足セシムヘキモノナキカ如シ。從テ之ヲ研究スルコト未タ數歩ナラスシテ疑問百出シテ殆ント適從スルニ苦シム。請フ予輩ヲシテ本問ニ對スル疑問ノ二三ヲコ、ニ掲ケシメヨ。

英國經濟學派ニ屬スル學者ハ本問ニ對シテモ恰モ世ニ自然ノ法則アルモノ、如ク明ニ其法則ヲ示セリ。之ニヨレハ貨物ヲ三種ニ分チ(一)生産費ヲ増加スルコトナクシテ自由ニ其數量ヲ増加スルヲ得ル貨物ト(二)數量ヲ増加スルヲ得ルモノト同時ニ生産費ヲ増加セサル可ラサル貨物ト及ヒ(三)生産費ヲ増加スルモ其數量ヲ増加スルヲ得サル貨物トナシ、第一種ノ貨物ハ之ヲ工業品ニ於テ見ル如ク物價ハ

其生産費ニヨリテ決定シ若シ之ヲ離レテ上下スルコトアルモ久シカラスシテ再
ヒ生産費ニヨリテ決定セラル、ニ至ルヘシ。第二種ノ貨物ハ農産物ニ於テ之ヲ見
ル如ク其ノ一部分ヲ比較スル時ハ生産費ニ異同アレトモ、其物價ハ其市場ニ顯ハ
レタル貨物ノ中最モ多ク生産費ヲ要シタルモノ、生産費ニヨリテ決定ス。第三種
ノ貨物ニ至ツテハ全ク生産費ヲ離レテ需要供給ノ關係ニヨリテ定マルヘシトナ
リ。

コノ意見ハ前提トシテ經濟行爲ヲナスモノハ自由ニ競争ヲナスヲ得ルモノニ
シテ而カモ自由ニ競争ヲナシ得ル結果上ニ述タル如キ自然法則行ハレテ我等ハ
此法則ニ悖ルコト能ハサルナリトナスモノナリ。予輩ハ眼前經濟行爲ヲナス者ノ
間ニ自由競争ヲナスヲ得ルモノニ非ルノ事實ヲ見ル以上ハ此ノ前提ニモ多ク信
ヲ置ク能ハサルト同時ニ其ノ決論ニツキテモ疑ヲ挾ムヲ得ルヲ信ス。試ミニ第一
種ノ貨物ニツキテ觀察セヨ。

小賣相場ニツキテ考フルニ我等消費者ハ貨物ノ品質價格等ニツキテ十分ナル
智識ナク生産費ニツキテモ殆ト智識ナシ。從テ小賣商ノ示ス物價ヲ以テ正常ナリ

トシテ之ニ服従スルカ、假リニ其ノ物價ヲ以テ正當ナラストスルモ、之ハ單ニ感情
的ニ従前ノ物價ト比較シテ云々スルマテニシテ深キ理由ヲ有スルモノニ非ルガ
故ニ自然小賣商ト消費者トノ間ニ論者ノイフ如キ自由競争行ハル、筈モナク、從
テ物價ハ生産費ニヨリテ定マルモノニ非ス。卸賣相場ニテモ物價ハ常ニ生産費ト
一致スルモノニ非ルハ論者モ承認スル所ナリ。然ラハ卸賣相場ハ所謂黑人同志ノ
間ニ生スル物價ナレハ論者ノイフ如キ自由競争ノ法則行ハレテ遂ニ生産費ニヨ
リテ定ルカトイフニ、未タ必シモ然ラス、自由競争ノ行ハル、ハ小賣商ト消費者ト
ノ間ノ取引トハ同日ノ談ニ非スト雖モ、之カ爲ニ物價ハ生産費ニヨリテ決定スト
イフハ誤レリ。經濟界不況トナルヤ相爭フテ捨賣ヲナスモノヲ生シ物價ハ生産費
以下ニ下ルコト甚シ若シ此際生産費ニ重キヲ置キテ捨賣ヲナサ、ル時ハ更ニ其
困難ヲ増加スヘシ。反之經濟界順況トナリ物價騰貴シテ生産費以上ニ上リ生産者
ノ利潤割合ニ多シトスルモ、論者ノイフ如ク直ニ競爭者表ハレテ物價ヲ下落セシ
ムルモノニ非ス、工業ニハ固定資本ヲ要スルコト多ク、假リニ固定資本ヲ要スルコ
ト多カラストスルモ、熟練ナル勞働者ヲ要スヘキカ故ニ容易ニ新ニ業ヲ起シテ之

ト競争スルコト能ハザルナリ。若シ自由競争ノ最モヨク行ハル、所ヲ求ムレバ取引所ノ相場ニ如クモノナカルヘシ、取引所ハ需要供給ノ集マル所ナレハナリ。而カモ取引所ノ相場ニハ投機等種々ノ原因ニ制セラレテ生産費ニヨリテ常ニ決定スルモノニ非ルハ人ノヨク知ル所ナリ。假リニ第一種ノ貨物ハ生産費ニヨリテ決定スルトイフヲ原則トスルモ上ニ掲クル如キ夥多ノ例外ヲ認メサルヘカラサル以上ハ、コノ決論ヲ承認スルコト難シ。サレハコノ説ヲ採ルモノモ、生産費ト一致セル物價ヲ Normal Value ト唱ヘテ此種ノ貨物ノ物價ハコノ標準ニ近ラントスル傾向アリトナスモノ多シ。

コレ等眼前ノ事實ヲ離レテ單ニ理論ノ上ヨリ見ルモ、所謂生産費トハ現實ニ其貨物ヲ生産スルニ要シタル費用ト普通生産者ノ得ヘキ利潤トノ和ナリヤ、又ハ普通通コノ種ノ貨物ヲ生産スルニ要スヘキ費用ト利潤トノ和ナリヤ、理論上ニテハ之ヲ明ニ分タサル可ラス。而シテ學者ノ多クハ物價ヲ決定スル生産費ハ第二ノ意義ニ解スルモノ、如シ。果シテ然ラハ或特別ノ事情ノ下ニ割合ニ生産費ヲ少クスルヲ得タル生産者ハ、タトヒ物價ニシテ生産費以下ニ下リタリトスルモ尙苦痛ヲ感

セサルカ故ニ論者ノ説ク如ク生産ヲ抑制シテ物價ノ下落ヲ阻マントハセサルヘシ。換言セハ生産者ノ重ヲ置クハ貨物ノ物價カ生産費以下ニアリヤ否ヤニハ非シテ寧ロ或期間ニ於ル收益ハ其ノ要シタル生産費ヲ償フテ餘アリヤ否ヤニアリ。從テ生産費ノ物價ヲ決定スル標準トシテノ力ハ甚タ少シトイハサル可ラス。

之ヲ第二種ノ貨物ニツキテ見ルモ最高生産費カ物價ヲ決定スル場合ハ生産費ヲ増加スルニ非レハ絶對ニ其需要ヲ満足スル能ハサル場合ニ限ラル。若シ稍時ヲ經テ其供給ヲ増加スル見込アル時又ハ海外諸國ノ割合ニ生産費ヲ要スルコト少キ地方ヨリ供給ヲ得ル見込アル時ハ物價ハ左マテ騰貴スルモノニアラス、又海外ノ生産費ノ少キ地方ヨリ供給ヲ見タル時ハ之カ爲ニ物價ハ下落スヘキカ故ニ所謂最高生産費ノ物價ヲ決定スル力ハ論者ノイフ如ク大ナラサルナリ。其他第一種ノ貨物ニツキテ陳タル所ハ一部分移シテ之ヲ第二種ノ貨物ニツキテモ適用スルヲ得ヘシ。

予輩ハコヽニ泰西諸學者ノ學說ヲ羅列シテ之ヲ精査批評セントスルニ非ス。若シ必要アラハ稿ヲ改メテ之ヲ試ムヘシト雖モ聊カ方面ヲ更ヘテ獨斷的ニ次ニ

陳ルカ如キ説明ニテハ或ハ物價決定ノ原則ノ一部分ヲ説述スルヲ得サルヤ否ヤニツキ教ヲ乞ハントスルナリ。コノ説明モ決シテ獨創的ニアラサルハ予輩ノ熟知スル所ニシテ租税ノ轉嫁ヲ論スルモノハ同シ説明ヲナスモノ多キナリ。而シテコノ説明ニモ矛盾アルヘク缺點アルハイフマテモナク予輩モ之ヲ筆ニシ乍ラ自ラ疑ヒ自ラ駁シツ、アルナリ然レトモ千里ノ砂漠ニ彷徨スルモノハ蜃氣樓ヲ認メテ之ニ赴クハ人ノ情ナレハ試ミニ掲ケテ江湖ノ教ヲ待ントス。

〔二〕

予輩ハ私ニ物價ハ取引スル者ノ經濟力ノ強弱ニヨリテ決スルモノニシテ、生産費ヲ初メ經濟界一切ノ顯象ハ經濟力ノ強弱ヲ生スル原因ニアラスヤト考フ。換言セハ取引スルモノハ成ルヘク自己ニ利益アルヲ欲シテ負擔トナルヘキモノハ之ヲ避ケントスルモノナレハ經濟力ノ許ス限ハ其利益ヲ主張シ其負擔ヲ他ニ轉嫁セントハスルナリ、故ニ物價ノ高低ハ其場合ニ於ル取引者相互ノ經濟力ノ強弱又ハ其意識ニヨツテ定ル。初ヨリ物價ノ高低ヲ決定スル準則ナク所謂準則トイフハ實ハ間接ノ原因ナリト考フナリ。是レ甚タ獨斷的ニシテ果シテ有ユル經濟顯象ニ

適用シテ誤ラサルヤ否ヤヲ知ラスト雖モコ、ニ其ノ意味ヲ披陳シテ叱正ヲ仰カント欲ス。

コ、ニ取引スル者ノ經濟力ノ強弱トイヒタリ。現ニ取引スル者ナラサルヘカラス若シ該貨物ニ對シ何等ノ欲望モナク、ヨシ之ヲ得ントスル意思アルモ之ヲ得ルノ資力ナキモノハ取引者ノ範圍ニ入ル能ハス。學者ノ吾人ノ貨物ニ對スル價值ハ物價ノ最高限ヲナスモノナリトイフハ即チ取引者ト非取引者トノ限界ヲ示シタルモノニシテ、タトヒ賣手カ經濟力ニ於テ立勝リ敵手方ヲシテ其意思ニ服從セシムル位置ニアリトモ、非取引者ヲ取引者ノ範圍ニ入ラシムル能ハス、否取引者ノ範圍ニ入ラントスルモノモ遂ニ之ヲ避クルニ至ルヘシ。タトヒ經濟力ニ於テ弱クトモ、少クモ主觀的ニハ該貨物ヲ得ルノ快感ト之ニ對スル犠牲トハ對照比較スルヲ得ヘケレハナリ此顯象ハ所謂獨占價格ノ決定ノ事實ニツキテ明ニ之ヲ認メ得ヘシ。例セハ「トラスト」ハ市場ヲ獨占シテ購買者ニ對シテハ遙ニ優勝ナル位置ニ立ツカ如シ。然レトモ「トラスト」ハ際限ナク物價ヲ高クスルヲ得ルヤトイフニ決シテ然ラス「トラスト」カ物價ヲ高ムルニ從ヒ非取引者ノ範圍ヲ増加スルカ故ニ若シ其收

入ヲシテ最も多カラシメントセハ、其ノ意思ニ從ヒテ物價ヲ高ムヘカラス。獨占者ハ其物價ヲ際限ナク高ムルヲ得サルニアラス、利益アラサルカ爲ニ之ヲ敢テセサルノミ。換言セハ獨占者モ利益減殺ノ恐アルカ爲ニ經濟上劣等ノ位置ニ立ツトイフヲ得ヘシ、コヽニ注意スヘキハ獨占スルモノハ吾人ノ必需品ナリヤ否ヤニ從ヒ、非取引者ノ範圍換言セハ獨占者カ其經濟力ヲ振フコト能ハサル範圍同シカラサルコトナリ。古名匠ノ製品ノ如キハ取引者ノ範圍至ツテ狹キカ故ニ取引者ノ經濟力ノ優劣ヲ比較スルコト極メテ簡單ニシテ之ヲ需要供給ノ投合ニヨリテ定マルトイフモ差支アルヘカラス。若シ夫レ必需品ノ獨占者ニ至ツテハ其威力ヲ振フ範圍甚タ廣シ。

取引者ノ經濟力ノ強弱トイフハ取引者カ取引ヲナス場合ニ於ル相互ノ經濟上ノ位置ノ優劣ヲ指スナリ、消費者ハ商人ニ對シテハ多クノ場合ニ於テハ經濟上ノ位置劣レリ、何トナレハ消費者ハ貨物ノ品質經濟界ノ趨勢ニツキテ知識乏シケレハ商人ハ之ニ乘シテ物價ヲ或程度マテ高メテ其利益ヲ増加スルヲ得ヘシ、特ニ我國ノ如ク日常ノ需要品ハ之ヲ出入商人ニ供給ヲ仰ク制度アル國ニ於テハ消費者

ノ位置ハ更ニ劣レリトイハサルヲ得サルナリ、出入商人カ華客ヲ得ルニハ困難ナルヘシ而カモ之ヲ得タル時ハ稍獨占的位置ニ立ツヲ得ヘシ。稍獨占トイヘリ決シテ絶對ニハアラサルナリ。コヽニ又慣習ノ力アルヲ記セサル可ラス、消費者ハ品質等ニツキテ知識ナキカ故ニ、慣習便宜ニ重キヲ置クヲ以テ商人ニシテ之ニ逆ハントセハ直ニ消費者ハ非取引者ノ範圍ニ入ルヘシ、換言セハ商人ハ之ヲ守ラサルヘカラサル經濟上ノ位置ニアリトイフヲ得ヘキナリ。慣習ト竝ヒテ代用品ノ有無競爭者ノ多少ハ商人又ハ生産者ノ經濟上ノ位置ヲ動ス原因ヲナスモノナリ、消費者モ其欲望ヲ満足スル爲ニ各其見ル所ニヨリ種々ノ貨物若クハ生産者又ハ商人ヲ比較セントスルモノナレハ、代用品ノ有無競爭者ノ多少ハ生産者又ハ商人カ消費者ニ對シテモ常ニ斟酌セサルヘカラサル條件ナリ、此等ハ原因ハ取引者ハ經濟力ハ優劣ヲ生スル一因ニシテ、物價ニ對シテハ間接ノ勸ヲナスモノナリ、故ニ其原因カ取引者ヲシテ經濟力ノ強弱ニ變化ヲ生シタルヲ意識セシムルニ至ラサル時ハ物價ニ影響ヲ及サハルナリ。

卸賣相場モ小賣商人ト消費者トノ經濟上ノ位置ニ變化ヲ與フル一因タリ。卸賣

相場ト小賣相場ノ値開キハ一面ニハ小賣商人間ノ競争ヲ誘致スルト消費者ヲシテ其位置ヲ覺知セシムル原因タリ卸賣相場ハ小賣商人ノ私經濟ノ見位ヨリスレハ生産費ノ最大要素タリ故ニ之レヲ生産費ノ物價ニ及ホス影響ヲ論スル所ニ讓ル。

生産者ト商人卸賣商人ト小賣商人トノ間ニ於テモ物價ノ高低ハ相互ノ經濟力ノ強弱ヲ意識スルノ結果ナルコト前ノ場合ト同シ、但シ此ノ場合ニ於テハ其力ノ強弱ノ意識カ感情的ニアラスシテ根據アルカ爲メニ實際ノ經濟力ノ強弱ト一致スルコト多キ差アルノミ。

取引者ハ互ニ敵手方ノ經濟力ノ缺欠ニ乘シテ其利益ヲ謀ラントス。直取引ニ於テハ兎角現物ノ存在ヲ必要トスヘキカ故ニ、存在スル貨物ノ多少ハ兩者ノ經濟力ノ強弱ヲ生スル基ニハ相違ナシト雖モ、此場合トテモ存在高ヲ明ニ知ルコト容易ナラサルカ故ニ、現存高トイフハ其憶測ニ止ルコトアリ。イヒ換レハ投機ノ分子ハ經濟力ノ強弱ヲ生スルニ加ハルヘキモノトス。信用取引ニ於テハ更ニ投機ノ分子ノ加ハルコト多カラサルヲ得ス、予輩ハ經濟界ノ趨勢ニヨリテ三ヶ月後ニ表ハル

ヘキ物價ヲ評定スルヲ得ヘシ。然レトモ其實現スル物價ハ予輩ノ豫測ニ合ハサル
コト甚タ多シ、少クモ時々刻々ニ起ル物價ノ變動ハ予輩ノ豫測ニ背クコト數々ナ
リ。是レ予輩ノ豫測ニ誤謬アルカ爲ニアラスシテ取引者ノ多クハ予輩ト意見ヲ同
ウスルカ爲ニ、彼等ノ一部分ハ其反動ノ生スヘキヲ信シ特ニ反對ニ經濟力ノ強弱
ヲ推測スルニ由ル。學者或ハ自由競争ノ行ハル、ト、取引者カ其經濟上ノ位置ヲ意
識スルヲ前提トスルニ拘ラス定期取引等ノ物價ニ及ス不可思議ナル經濟力ノ暗
闘ノ影響ヲ看過スルモノアリ。予輩ヲ以テ之ヲ見レハ投機ノ物價ニ及ス影響ハ之
ヲ生産費ニ比シテ優ルトモ劣レルモノニ非ルモノ、如シ、投機ノ經濟界ニ及ス力
大ナルカ爲ニ前ニ述タル如ク物價ハ既ニ生産費以下ニ下レルニ拘ラス、尙生産ヲ
増加シ之ヲ廉賣スルモノ少カラス。從テ物價ヲシテ益々下落セシムルナリ。物價ニ
シテ生産費以下ニ下レハ直チニ生産ノ減少ヲ見ルヘシトスル如キハコノ投機ノ
分子ヲ度外視スルモノニ非スシテ何ソヤ。

生産費モ取引スル者ノ經濟力ノ強弱ノ關係ヲ變化セシムル重大ナル原因ナル
ニハ相違ナシ。何トナレハ若シ物價ニシテ生産費以上ニ上リ現ニ生産スル者ニシ

テ割合ニ利潤多キ時ハ、特ニ獨占ノ位置ニ立タサル限ハ一面ニハ競争者ヲ促ス趨勢アルヲ意識スルト、タトヒ其物價ヲ下落セシムルモ猶相當ノ利潤ヲ得ヘキヲ信スルカ故ニ經濟上ノ位置從前ニ比シ稍劣レルヲ意識セサルヲ得ス、サレハ、取引スルニ當リテモ敵手方ニ對シ從前ノ如ク強硬ナル態度ヲ擇ルヲ得ス、其結果其物價ヲシテ下落セシムルナリ。但シ或特種ノ事情ノ下ニ生産費割合ニ高クシテ、相當ノ利潤以上ヲ得サルモノハ前ニ陳タルモノトハ位置同シカラスト雖モ、其競争者ニシテ物價ヲ下落セシムル時ハ、タトヒ、從前ノ如ク高價ヲ維持セントスルモ大勢ノ趣ク所如何トモスル能ハス、若シ強イテ高價ヲ維持セントスレハ全ク販路ヲ失フ弱點アル爲ニ其物價ヲ下落スルノ已ムヲ得サルニ會スコノ場合ニテモコレ等生産者ハ連合其他種々ノ手段ニヨリテ其經濟力ノ缺乏ヲ補ハントスルハ人ノ知ル所ナリ。反之物價ニシテ生産費以下ニ下ル時ハ、買手ハ更ニ物價ヲ下落セシムル力ヲ有セサルヲ原則トス。何トナレハ生産者ハ若シ機會アラハ他ノ生産ニ移ルカ、一時生産ヲ減少シテ損毛ヲ避ケントスレハナリ。但シ前ニ陳タル如ク生産者ニシテ固定資本ノ關係其他ノ事由ニヨリ多ク生産シ之ヲ廉賣シ、以テ競争者ヲシテ倒レ

シメントスルハ自ラ買手ニ對シテ求メテ弱者ノ位置ニ立タントスルモノニシテ
從テ物價ヲ下落セシムルナリ此ノ事例ハ實ニ生産過多ノ場合ニ數々見ル所ナリ。
要之生産費ノ物價ニ及ス影響ハ間接ニシテ直接ニアラスト。

(次號完結)